

授業科目	航空産業論					単位	2		
履 修	選択	関連資格				ナンバリング	TO31413J		
開講年次	3・4 年	開講時期	後期	該当DP	DP1-2 DP4-1				
担当教員	宮原 英利								
授業概要	旅行の交通手段として航空は重要な位置をしめ、とりわけ日本では海外旅行のほとんどは航空機利用であり、観光と航空ビジネスの関係をすることは重要である。旅行業と航空業の関係のみならず、宿泊や観光地との関係でも、航空ビジネスは重要な関わりを持つ。 このように、航空ビジネスを抜きにしては観光を語れないが、この講義では、航空産業の仕組み、航空ビジネスの役割、現状や課題を知り、観光との関わりを学ぶ。								
学生が達成すべき行動目標	1 航空業界の現状と課題を理解できる。 2 航空業界の現在の取組みを理解できる。								
達成度評価									
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート 外の提出物	その他	合計	備考	
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100		
知識・理解 (DP1-1)									
知識・理解 (DP1-2)	70		0				70		
知識・理解 (DP1-3)									
知識・理解 (DP1-4)									
思考・判断 (DP2-1)									
思考・判断 (DP2-2)									
関心・意欲 (DP3-1)									
関心・意欲 (DP3-2)									
態度 (DP4-1)						30	30		
態度 (DP4-2)									
態度 (DP4-3)									
技能・表現 (DP5-1)									
技能・表現 (DP5-2)									
技能・表現 (DP5-3)									
具体的な達成の目安									
理想的レベル				標準的なレベル					
1 航空業界の現状と課題を理解できる。 2 航空業界の現在の取組みを理解できる。				1 航空業界の現状を理解できる。 2 航空業界の現在の取組みのうちの 7 割程度を理解できる。					
授業計画									
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)	
1	オリエンテーション			講義・演習		当該部分の予習復習		30	

2	航空産業の歴史(1)戦前から戦後	講義・演習	当該部分の予習復習	30
3	同 (2)現代的課題	講義・演習	当該部分の予習復習	30
4	観光と交通	講義・演習	当該部分の予習復習	30
5	航空事業(1)航空事業の特性	講義・演習	当該部分の予習、復習	30
6	同 (2)運賃政策と格安航空券	講義・演習	当該部分の予習、復習	30
7	同 (3)航空政策と空の自由化	講義・演習	当該部分の予習、復習	30
8	航空事情(1)世界の航空会社と空港	講義・演習	当該部分の予習、復習	30
9	同(2)ハブとアライアンス	講義・演習	当該部分の予習、復習	30
10	同(3)日本の航空会社と空港の課題	講義・演習	当該部分の予習、復習	30
11	航空運賃と流通(1)運賃の仕組み	講義・演習	当該部分の予習、復習	30
12	同 (2)流通の仕組み	講義・演習	当該部分の予習、復習	30
13	LCC(格安航空会社)	講義・演習	当該部分の予習、復習	30
14	空港ビジネス	講義・演習	当該部分の予習、復習	30
15	まとめ	講義・演習	全体の復習	30
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				

27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	英語を使うことが多いので、最低でも英検準 2 級程度の英語力。			
テキスト	「エアポートビジネス入門」JTB 総合研究所			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	・「航空事業論」井上泰日子、日本評論社、2600 円 ・「航空産業入門」ANA総合研究所編、東洋経済新報社、2400 円			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	人文、社会科学系の学部の学生が学修する航空業・ビジネスは、「運輸業」ではなく「サービス業」である。そのため、知識や語学よりも、このビジネスの現状と課題をしっかりと学ぶこと。それには、関連する新聞記事やテレビ番組などを日頃から見ておくことが重要。			
達成度評価に関するコメント	知識よりも理解度を重視する。			